

# ふるさとで当たり前前の生活を送りたい



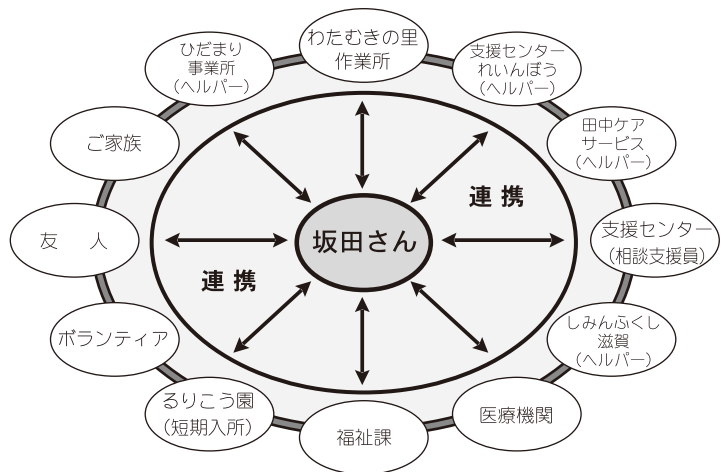
アパートでは、趣味のパソコンを使って、ブログの作成。友人との電話やメールのやりとりを楽しめます。

## 一人暮らしスタートまでの道のり

坂田雅史さん(42歳)は、生まれながらにして手足を自由に動かすことができない障がいがあります。普段は電動車いすで移動され、食事も介助が必要です。一人暮らしを始められるまでは、甲賀市にある障がいのある方が食事や生活面で支援を受けながら生活する福祉ホームで共同生活を送られてきました。現在、月々金曜日にはアパートでの生活。土・日曜日は実家で過ごし、月に数日程度は、ショートステイを利用して過ごされています。

アパートの決定、一人暮らしを支えるヘルパーの調整など、実際に一人暮らしを始めるまでには、5か月を要しました。障がいのある方のサービスは、周りの支援者だけで決めてしまう時代から、本人も入った本人中心によるチームで相談する形に変わってきました。坂田さんの一人暮らしも、多くの支援者チーム(図1参照)で何度も会議を重ねてこられました。アパートはすぐに決まりましたが、ヘルパーの調整には特に時間がかかりました。ヘルパーを派

坂田さんを中心とした支援のネットワーク(図1)



遣する事業所やヘルパーの数が限られている中で、1日3回入ってもうことは大変難しいことだったそうです。坂田さんを中心に、1回でも入ってもらえる事業所を探し、やっと月々金曜日は日に3回ヘルパーのサービスを受けられることが決まりました。田舎は都会に比べるとヘルパー事業所の数が少なく、「24時間体制で介助をするヘルパーやボラン

## 坂田さんの一曰

7:30~8:30 ヘルパー訪問・朝食

9:00 わたむきの里作業所へ出勤

9:45~15:45

わたむきの里作業所でパソコンを使った事務(ごえん亭のメニューや請求書の作成)、リハビリなど

\*月・水・金曜日は入浴。

16:00 アパートへ帰宅

16:00~17:00 ヘルパー訪問・夕食

17:00~22:00 趣味の時間

22:00~23:00 ヘルパー訪問・就寝準備



▲ヘルパーが抱えるか、クレーンで持ち上げてベッドで就寝されます

坂田さんが一人暮らしをしたいと思います。思われたのは、20歳のころ。「大学生くらいになれば、一人暮らしを始めるのではないですか。僕は20年遅くなりましたが、今始めることができました」。

坂田さんは、以前通われていた作業所でもとても尊敬できる先輩に出会われました。同じように障がいを持ちながら、一人暮らしをされていた先輩。その姿に憧れ、「自分もやろう」と実際に始めることを決意されました。

## 一人暮らしに踏み切った思い

ティアの確保が難しい」。そのため、障がいを持って一人暮らしをする人の数も田舎の方が少ないそうです。また、資金面で悩む人が多いことも実情です。

実際に一人暮らしをしてみると、相談したいときや何かしてほしいときに、周りに人がいないことは大変です。しかし、共同生活とは違って自分の時間を持つことができるようになります。生活自体が勉強になるそうです。

夕食の時間は、ヘルパーの方が来られている4時15分。少し早い夕食です。「ヘルパーさんにも生活があります。来てくれるだけでもありがたいです」。ヘルパーの方へ感謝の気持ちがあふれています。

「普通の生活がしたいだけ。当たり前前の生活を目指してきただけなのです」。

何事にも前向きに挑戦する坂田さんの行動力。地域の人々との安心感のあるつながり。

20年の思いが今、ふるさと日野で実現しています。

## 日野町社会福祉協議会 ひだまり事業所 訪問介護事業責任者 橋元成子さん

坂田さんのアパートに16:00~17:00の時間帯と、入浴時(わたむきの里作業所で週3回のうち1回)のヘルパーを派遣しています。高齢者介護を中心とする事業所だったので、専門性から考えると障がいのある方のサービスは難しいと思いましたが、しかし、坂田さんから地元日野のひだまり事業所でとの申し出があり、会議を重ねる中で今のサービスの形になりました。

「ヘルパーの支えで一人暮らしが実現できる」。だから、時間をかけて支援者同士が継続できるよう十分に検討しました。

事業所内でチームを作り、坂田さんにとって最も良い介助の仕方を、坂田さんからも教わりながらヘルパー同士で勉強し合っています。



▲わたむきの里作業所の「ごえん亭」で働く仲間。何でも言い合える関係です

## わたむきの里作業所 奥田美津江さん なかかわひろえ 中河裕恵さん

「ごえん亭」厨房班と一緒に働いています。以前から一人暮らしへの強い希望があった坂田さん。ヘルパーさんが決まらないときは、仕事でもあせりのようなものが感じられました。最初一人暮らしをすることは難しいのではと思っていましたが、自立した生活を送るために、これほど多くの支援者が存在することが分かりました。「自立」ではなく「自律」。ご本人もそう感じられているのではないのでしょうか。また、坂田さんを通して、多くの支援者同士の顔が見えるようになりました。